

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300261		
法人名	有限会社 川合		
事業所名	グループホーム 和(やわらぎ)	南ユニット	
所在地	静岡県浜松市浜北区東美園 66		
自己評価作成日	平成27年1月14日	評価結果市町村受理日	平成27年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kami=true&jiyosyoCd=2278300261-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成27年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が自分らしく安心して暮らし続けることができるよう、一人ひとりの思いや状況をふまえてその人らしい生活を職員全体で考え、さりげない支援を行なっている。
また、本人、家族の意向を優先し利用者が終末期になってもその方らしくゆったりと過ごしていただけるよう医療と連携し、おだやかな最期を迎えられるようチームで看取りに取り組んでいる。
近所の保育園と交流を続け行事をいっしょに行なったり、地域の活動に参加したり、日常的に近隣の方と近所づきあいをするなど地域に根ざしたグループホームになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣家の上棟式には道路を隔てて餅を投げ入れてもらえるほど密な関わりが築き上げられる中、開設10年を経て事業所の様子も様変わりしています。重度化が進むに連れて食事や入浴は一律の時間での対応が困難となりました。日常生活行為すべてに援助が必要な利用者自立した利用者が混在する現状で、双方が満ち足りた暮らしを模索し「外出予定日は必ず出かけよう」と決めて実行しています。医師の指示を仰ぎつつ、家族の意向を尊重するなか、今日までの1年間で5名をお見送りしています。看取りに向き合った職員が語り合うグリーフケアが今をより良く生きるケアとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	来訪者にもわかるよう、玄関や事務所に理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、職員の会議時には必ず読み上げ事業所のケアの基本が理念であることを共有し、徹底して日常のケアの実践につなげている。	理念“共にささえあいその人らしく安心した生活を、はケアの基本として、ユニット会議で結論を導き出す時に立ち返る原点となっています。その人が安心して暮らせるよう小さな願いにも応える職員の姿に、管理者は理念の浸透を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が地域の一員として、お祭りの屋台を招いたり、地域の防災訓練に参加するなど自治会の行事にも参加している。また、地域の保育園といっしょに行事を行うなど交流を続けている。	地域のお祭りには屋台が寄り法被姿の若者の熱気に包まれます。敬老会には園児訪問、中学生の福祉体験と世代間交流も豊富で、散歩途中介護相談に赴く人もありました。隣家の上棟式には道路を隔てて利用者に向け餅を投げ入れてもらえるほど密な関わりとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のお便りを自治会を通じ地域の方に回覧し、事業所の様子、認知症の方の生活、支援について理解をいただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催し、取り組みや現状を報告し意見を聞きサービスの向上に努めている。また、利用者家族を中心に参加を呼びかける際にはいっしょに食事を摂っていただき、利用者それぞれへのケアの方法について意見を聞きサービス向上に活かしている。	町内会長、民生委員、家族をメンバーとして奇数月ごとに年6回開催できています。映像による活動報告で事業所理解を深め「空室のグループホームもあるのに3名も待機者がいるのは珍しい」「職員の離職率が低く良いケアに繋がっている」といった感想を議事録から視認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区担当者に運営推進会議に参加していただき、事業所の取り組みに関する意見をいただいたり行政からの情報を教えていただき協力関係を築いている。	運営推進会議には毎回長寿保険課、地域包括支援センター職員の出席があります。介護保険更新申請、認定調査結果についての質問にも丁寧な回答がもらえ、地域から寄せられる困りごとを報告して連携に努めています。月に一度介護相談員も来訪しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」という意識を職員全体で理解し、会議や勉強会で学ぶ機会を持ち、日常的に身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	日常的な点滴が必要な利用者もあり、命に関わる場合を除き「身体拘束をしない」という考えを貫き、滴下が終わるまで付き添っています。動けなくなった人でも人生の先輩であり「させていただく」気持ちで接することから生まれる安らぎが職員のストレスを軽減しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を行ない高齢者虐待防止について意識を高め、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように職員がお互い注意を呼び掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を必要とする利用者はいないが、学ぶ機会を持ち今後に備え理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所内を見学していただいたうえでケアに対する方針や重度化について不安のないよう十分な説明を行ない、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時やお便りなどで利用者の様子を伝え、家族会や訪問時に意見や要望を聞くようにしている。出された意見は職員会議にて話し合い、ケアや運営に反映させようと努めている。	年2回の家族会は、食事を交えて日頃の様子をお知らせしたり、秋には畑の収穫祭で盛り上がります。些細な変調でもこまめに連絡することで要望を引出しています。ベッドで過ごす時間が増えましたが褥瘡もないケアに感謝の言葉が聞かれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常的に職員それぞれの意見を言い合える雰囲気であり、管理者からも声掛けし意見や思いを聞き運営に反映させている。	全職員が参加する月に一度のユニット会議と職員会議には一人ずつ発言を促し、代表者、管理者共に「必ず意見を吸い上げる」心構えで臨んでいます。迅速な判断が必要な案件は会議を待たず相談の機会を設けており、食事会など職場を離れて話しやすい場があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員のケアや業務の様子を把握し理解している。親睦会の開催、永年勤続表彰、資格取得支援を行ない職員が意欲を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を考慮し、外部の研修を受けられるよう計画している。また、研修報告を勉強会にて発表し職員全体が共有し全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を持ち、相互に意見を交換し日常のケアや運営に活かしサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際、本人に話を聞いたり行動をよく観察し、困っていることを探り本人が安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、家族が困っていることや不安なこと、要望などをよく聞き、事業所としてどのような対応をしていくか話し合い家族にも安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、その時の状況や思いを考慮し、必要なサービスを受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で掃除や洗濯物を畳むなど、できることはいっしょに行なうよう心掛けている。利用者から教えていただいたり助けていただくことも多く、理念にもある「共にささえあう」関係を築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所での生活の様子を家族に伝え、本人の思いやできることを話し合い、家族それぞれの協力を得て共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問も多く、なじみの関係が途切れないよう支援している。また、飲食店や美容院など、なじみの場所へも継続して行けるよう家族と協力し支援に努めている。	通い続けた開業医が往診に訪れる日には背筋も伸び誇らしさを感じられる人もあります。年末の外泊では短時間で「もう帰る」と言う人もいて、ここでの暮らしが馴染みになりつつあります。居室での生活が長くなった利用者にも面会は絶えず成人式の晴れ姿お披露目もありました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互いが関われる時とそうでない時を見極め、一人ひとりが生活にプラスになるような関わりができるよう支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた時には、当事業所での生活の様子などを情報提供し、本人がこれまでの生活を継続できるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、何気ない会話や表情から利用者の思いを汲み取るよう心掛け、職員が共有し適切な支援につなげている。	入浴時間は一対一でゆっくり話ができる好機と捉え、食事で残した物ひとつについても“情報”と受け止めて理由を考えています。介助が必要な利用者にも「何から食べますか」と尋ねる職員の姿勢に、自己決定を重んじたケアが行き届いていることが観えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らし方や生活の様子、好きなもの、嫌いなものなどを聞き、職員が共有しその人らしい生活を継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、本人が安心して生活できるよう支援している。また、心身の状態の変化は記録や申し送りにて職員が共有し、適切な支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットの会議にて、担当職員の提案を中心に職員が話し合い介護計画を作成している。また、医師や看護師、家族にも意見を求め身体状況に変化があった時には、直ちに変更し柔軟に対応している。	解決すべき課題を「困っていることは」、短期目標は「どうなりたいか」、計画を「なにをどうするか」、評価は「そしてどうなったか」と表現を簡易にし、家族や新人職員にも身近な計画表になっています。担当職員が期間内にモニタリングと案件を提示しユニット会議で収束しています。	プランが実践される仕組みがありますが、記録との連動がさらに工夫されることを期待いたします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたケアの実践や、日常の様子や思いが伝わる言葉など個別に記録に記入し、職員間で情報を共有し日常のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人の生活や心身の状態を把握し、その時々本人に必要な支援やサービスが受けられるよう家族と相談し柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安心して地域で暮らし続けることができるよう地域の民生委員や自治会長と意見交換をしたり、地域の保育園と交流をもち豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が協力医に変更し、2週に1回の医師の往診と毎日の看護師の訪問が受けられるよう医療との連携を築いている。また、状態により専門医の受診が受けられるよう支援している。	「常の状態を把握する職員が付き添うのが自然」との考えから受診支援は職員がおこなっていますが、病院での待ち合わせで家族も同席しています。短時間でありながらも毎日のように足を運んでもらえる協力医は、何よりも心強い存在となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で利用者の身体状況に変化があればすぐに看護師に報告し、適切な医療が受けられるよう支援している。また、健康管理の面でも相談し、適切な助言を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、本人の生活の情報を提供し支援している。また、家族や病院関係者と協力し回復状況などの情報交換をし、スムーズに退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を入居時に説明し、早い段階で利用者や家族の意向を確認している。また、重度化した場合、本人の状況をふまえて再度以降を確認し、納得したうえで終末期がむかえられるよう医師や看護師と連携しチームで支援に取り組んでいる。	「ここで静かに看取りたい」という家族が増えています。食事が摂れなくなった段階での点滴をどうするか一つとっても家族は悩み迷うため、気持ちに寄り添いながら5名を看取っています。職員の想いを語るグリーンケアが生ききるケアに結びついています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に備え、勉強会にて学ぶ機会を設けマニュアルを作成し、緊急時にも適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に一度状況の設定を変えて通報訓練と避難訓練を行なっている。地域の防災訓練に参加したり、近隣の方の協力も受けられるよう体制を整えている。	火災発見から通報、初期消火といった一連の手順を全職員が体験できるように実施しています。繰り返しの訓練で火災報知器の音に「外行くの？」と利用者の反応も俊敏です。運営推進会議で災害事の待機、避難先、災害伝言ダイヤルの活用といった申し合わせができています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を背景に利用者の尊厳を大切に、相手に分かりやすい寄り添った言葉かけを心がけている。	「ご不浄」「お便所」と、その人にしか通じないワードでささやくように誘っています。重度化が進むに連れて食事や入浴は一律の時間で対応が困難となっています。安易な介助とせず個々の生活のペースをつくり、意欲に合わせた声かけと食事時間が守られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いを汲み取ったり、表情から読み取ったりして、本人が決定できるよう声掛けし。自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本なおおよその日課はあるが、一人ひとりのペースや希望を優先した支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には本人の意思にまかせている。自己決定しにくい方には選択していただいたり、本人の情報から職員が支援し、その人らしさが失われないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせたメニューを提供し良事が生活の中の楽しみとなるよう支援している。その方の嚥下状態に合わせ普通、きざみ、とろみ、ソフト食を用意し、嫌いなものがあれば別メニューで提供している。また、利用者と職員がいっしょに食事や片付けをし食事が楽しい時間となるよう支援している	専任職員が作るお好み焼きはおかわりも用意されるほど人気メニューのひとつとなっています。三食きちんと摂ることが難しくなり食が細くなっても、好みに合った食べ物をその人に合った形態で提供し、栄養補助食品を併用しながら経口摂取を支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー摂取量を考慮した献立を作り適切な食事形態にて提供している。また、一人ひとりの食事量・水分量を記録し、健康状態に留意した支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力や状態に合わせ、声掛けや見守りをして促している。できない方にはその方に合わせた口腔ケアを行ない、食べ続けることができるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力を考慮し、排泄パターンをつかみトイレでの排泄を促している。	立位保持がままならない人や寝たきりになっても心地よい自然排便のために職員二人介助でトイレでの排泄を援助しています。硬い便座で円背や痩身の利用者の皮膚を傷つけないよう緩衝材とカバーで覆い、座ることが苦痛にならない配慮もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を記録し、牛乳やヤクルト、ヨーグルトを提供したり十分な水分摂取、適度な運動を働きかけ、その方に応じた便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めてしまうことなく、希望があれば、それに応じた時間で入浴できるよう支援している。また、冬至の際には、ゆずを浮かべて季節感を味わい楽しめるよう支援している。	冬至に限定せず柚子の季節にはたくさん浮かべて香りを楽しみます。曜日を決めず、本人の意思に任せ午前、午後の入りたい時間として週2~3日を目安にしています。褥瘡予防のためにも皮膚観察や処置をおこない、入浴できない日には手浴、足浴で清潔を保持しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や状況に合わせて、いつでも休息がとれるよう支援している。また、適切な温度や湿度、清潔な寝具で安心して眠れるよう環境にも気を配り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方カードをいつでも確認できるようファイルし、用法や容量について理解している。また、症状に変化があれば看護師に伝え、その都度対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を十分に発揮していただけるよう、できそうなことをお願いし役割があることを実感できるよう支援している。また、食べたいものを職員とついでに買いこいたり、外食するなど気分転換を図る支援も行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、外食など本人の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。また、自宅に行ったり、親族に会いに行くなど家族とついでに出かけられるようにしている。	散歩の頻度は現状が維持できている人が多いことから察せられます。重度化により全員での外出は減りましたが、ADLの高い人の要望に応えたいと、企画は実行できるよう努めています。大型ショッピングセンターでペットコーナーを覗いたり、外食や花見ドライブも取り入れています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には財布に入れて所持し、買い物の際は支払いをしていただいている。できない方には職員が介助して行うが買い物をする楽しさは味わえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる利用者は現在いないが、電話で家族や知り合いといつでも連絡をとれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節感のある装飾をしたり、利用者といっしょに選んだ行事や日常の写真を飾ったりしている。また、クッションフロアを新しく張り替え明るい雰囲気になっている。	クッションフロアをリニューアルして雰囲気も清浄で衛生面も向上しています。園児達との交流の写真や共同作品が微笑ましく、明るい話材が連なります。壁面装飾は時節が感じられるツールとして担当職員が策を凝らしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のところどころにソファを置き、利用者がいつでも座って落ち着いた雰囲気でも過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は利用者と家族が相談し、使い慣れたものを置いている。また、ベッド使用の習慣がない利用者にはマットを敷いて布団を敷くなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	ベッド、床頭台、クローゼット、カーテン、エアコンが備付けです。本人や家族と相談してレイアウトを決めますが、エアコンの風が直接当たらない場所にベッドを設置しています。家族の写真や思い入れのある筆筒、テーブル、椅子に囲まれ安寧の暮らしが垣間見えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、わかりやすいように表示したり、目印をつけたりしている。また、危険な箇所はカバーをしたり、職員が介助して安全で自立した生活が送られるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300261		
法人名	有限会社 川合		
事業所名	グループホーム 和(やわらぎ) 北ユニット		
所在地	静岡県浜松市浜北区東美園 66		
自己評価作成日	平成27年1月14日	評価結果市町村受理日	平成27年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kami=true&jiyosyoCd=2278300261-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成27年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が自分らしく安心して暮らし続けることができるよう、一人ひとりの思いや状況をふまえてその人らしい生活を職員全体で考え、さりげない支援を行なっている。
また、本人、家族の意向を優先し利用者が終末期になってもその方らしくゆったりと過ごしていただけるよう医療と連携し、おだやかな最期を迎えられるようチームで看取りに取り組んでいる。
近所の保育園と交流を続け行事をいっしょに行なったり、地域の活動に参加したり、日常的に近隣の方と近所づきあいをするなど地域に根ざしたグループホームになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣家の上棟式には道路を隔てて餅を投げ入れてもらえるほど密な関わりが築き上げられる中、開設10年を経て事業所の様子も様変わりしています。重度化が進むに連れて食事や入浴は一律の時間での対応が困難となりました。日常生活行為すべてに援助が必要な利用者と自立した利用者が混在する現状で、双方が満ち足りた暮らしを模索し「外出予定日は必ず出かけよう」と決めて実行しています。医師の指示を仰ぎつつ、家族の意向を尊重するなか、今日までの1年間で5名をお見送りしています。看取りに向き合った職員が語り合うグリーフケアが今をより良く生きるケアとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	来訪者にもわかるよう、玄関や事務所に理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、職員の会議時には必ず読み上げ事業所のケアの基本が理念であることを共有し、徹底して日常のケアの実践につなげている。	理念“共にささえあいその人らしく安心した生活を、はケアの基本として、ユニット会議で結論を導き出す時に立ち返る原点となっています。その人が安心して暮らせるよう小さな願いにも応える職員の姿に、管理者は理念の浸透を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が地域の一員として、お祭りの屋台を招いたり、地域の防災訓練に参加するなど自治会の行事にも参加している。また、地域の保育園といっしょに行事を行うなど交流を続けている。	地域のお祭りには屋台が寄り法被姿の若者の熱気に包まれます。敬老会には園児訪問、中学生の福祉体験と世代間交流も豊富で、散歩途中介護相談に赴く人もありました。隣家の上棟式には道路を隔てて利用者に向け餅を投げ入れてもらえるほど密な関わりとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のお便りを自治会を通じ地域の方に回覧し、事業所の様子、認知症の方の生活、支援について理解をいただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催し、取り組みや現状を報告し意見を聞きサービスの向上に努めている。また、利用者家族を中心に参加を呼びかける際にはいっしょに食事を摂っていただき、利用者それぞれへのケアの方法について意見を聞きサービス向上に活かしている。	町内会長、民生委員、家族をメンバーとして奇数月ごとに年6回開催できています。映像による活動報告で事業所理解を深め「空室のグループホームもあるのに3名も待機者がいるのは珍しい」「職員の離職率が低く良いケアに繋がっている」といった感想を議事録から視認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区担当者に運営推進会議に参加していただき、事業所の取り組みに関する意見をいただいたり行政からの情報を教えていただき協力関係を築いている。	運営推進会議には毎回長寿保険課、地域包括支援センター職員の出席があります。介護保険更新申請、認定調査結果についての質問にも丁寧な回答がもらえ、地域から寄せられる困りごとを報告して連携に努めています。月に一度介護相談員も来訪しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」という意識を職員全体で理解し、会議や勉強会で学ぶ機会を持ち、日常的に身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	日常的な点滴が必要な利用者もあり、命に関わる場合を除き「身体拘束をしない」という考えを貫き、滴下が終わるまで付き添っています。動けなくなった人でも人生の先輩であり「させていただく」気持ちで接することから生まれる安らぎが職員のストレスを軽減しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を行ない高齢者虐待防止について意識を高め、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように職員がお互い注意を呼び掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を必要とする利用者はいないが、学ぶ機会を持ち今後に備え理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所内を見学していただいたうえでケアに対する方針や重度化について不安のないよう十分な説明を行ない、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時やお便りなどで利用者の様子を伝え、家族会や訪問時に意見や要望を聞くようにしている。出された意見は職員会議にて話し合い、ケアや運営に反映させようと努めている。	年2回の家族会は、食事を交えて日頃の様子をお知らせしたり、秋には畑の収穫祭で盛り上がります。些細な変調でもこまめに連絡することで要望を引出しています。ベッドで過ごす時間が増えましたが褥瘡もないケアに感謝の言葉が聞かれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常的に職員それぞれの意見を言い合える雰囲気であり、管理者からも声掛けし意見や思いを聞き運営に反映させている。	全職員が参加する月に一度のユニット会議と職員会議には一人ずつ発言を促し、代表者、管理者共に「必ず意見を吸い上げる」心構えで臨んでいます。迅速な判断が必要な案件は会議を待たず相談の機会を設けており、食事会など職場を離れて話しやすい場があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員のケアや業務の様子を把握し理解している。親睦会の開催、永年勤続表彰、資格取得支援を行ない職員が意欲を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を考慮し、外部の研修を受けられるよう計画している。また、研修報告を勉強会にて発表し職員全体が共有し全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を持ち、相互に意見を交換し日常のケアや運営に活かしサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際、本人に話を聞いたり行動をよく観察し、困っていることを探り本人が安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、家族が困っていることや不安なこと、要望などをよく聞き、事業所としてどのような対応をしていくか話し合い家族にも安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、その時の状況や思いを考慮し、必要なサービスを受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で掃除や洗濯物を畳むなど、できることはいっしょに行なうよう心掛けている。利用者から教えていただいたり助けていただくことも多く、理念にもある「共にささえあう」関係を築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所での生活の様子を家族に伝え、本人の思いやできることを話し合い、家族それぞれの協力を得て共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問も多く、なじみの関係が途切れないよう支援している。また、飲食店や美容院など、なじみの場所へも継続して行けるよう家族と協力し支援に努めている。	通い続けた開業医が往診に訪れる日には背筋も伸び誇らしさを感じられる人もあります。年末の外泊では短時間で「もう帰る」と言う人もいて、ここでの暮らしが馴染みになりつつあります。居室での生活が長くなった利用者にも面会は絶えず成人式の晴れ姿お披露目もありました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互いが関われる時とそうでない時を見極め、一人ひとりが生活にプラスになるような関わりができるよう支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた時には、当事業所での生活の様子などを情報提供し、本人がこれまでの生活を継続できるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、何気ない会話や表情から利用者の思いを汲み取るよう心掛け、職員が共有し適切な支援につなげている。	入浴時間は一対一でゆっくり話ができる好機と捉え、食事で残した物ひとつについても“情報”と受け止めて理由を考えています。介助が必要な利用者にも「何から食べますか」と尋ねる職員の姿勢に、自己決定を重んじたケアが行き届いていることが観えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らし方や生活の様子、好きなもの、嫌いなものなどを聞き、職員が共有しその人らしい生活を継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、本人が安心して生活できるよう支援している。また、心身の状態の変化は記録や申し送りにて職員が共有し、適切な支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットの会議にて、担当職員の提案を中心に職員が話し合い介護計画を作成している。また、医師や看護師、家族にも意見を求め身体状況に変化があった時には、直ちに変更し柔軟に対応している。	解決すべき課題を「困っていることは」、短期目標は「どうなりたいか」、計画を「なにをどうするか」、評価は「そしてどうなったか」と表現を簡易にし、家族や新人職員にも身近な計画表になっています。担当職員が期間内にモニタリングと案件を提示しユニット会議で収束しています。	プランが実践される仕組みがありますが、記録との連動がさらに工夫されることを期待いたします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたケアの実践や、日常の様子や思いが伝わる言葉など個別に記録に記入し、職員間で情報を共有し日常のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人の生活や心身の状態を把握し、その時々本人に必要な支援やサービスが受けられるよう家族と相談し柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安心して地域で暮らし続けることができるよう地域の民生委員や自治会長と意見交換をしたり、地域の保育園と交流をもち豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が協力医に変更し、2週に1回の医師の往診と毎日の看護師の訪問が受けられるよう医療との連携を築いている。また、状態により専門医の受診が受けられるよう支援している。	「常の状態を把握する職員が付き添うのが自然」との考えから受診支援は職員がおこなっていますが、病院での待ち合わせで家族も同席しています。短時間でありながらも毎日のように足を運んでもらえる協力医は、何よりも心強い存在となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で利用者の身体状況に変化があればすぐに看護師に報告し、適切な医療が受けられるよう支援している。また、健康管理の面でも相談し、適切な助言を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、本人の生活の情報を提供し支援している。また、家族や病院関係者と協力し回復状況などの情報交換をし、スムーズに退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を入居時に説明し、早い段階で利用者や家族の意向を確認している。また、重度化した場合、本人の状況をふまえて再度以降を確認し、納得したうえで終末期がむかえられるよう医師や看護師と連携しチームで支援に取り組んでいる。	「ここで静かに看取りたい」という家族が増えています。食事が摂れなくなった段階での点滴をどうするか一つとっても家族は悩み迷うため、気持ちに寄り添いながら5名を看取っています。職員の想いを語るグリーフケアが生ききるケアに結びついています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に備え、勉強会にて学ぶ機会を設けマニュアルを作成し、緊急時にも適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に一度状況の設定を変えて通報訓練と避難訓練を行なっている。地域の防災訓練に参加したり、近隣の方の協力も受けられるよう体制を整えている。	火災発見から通報、初期消火といった一連の手順を全職員が体験できるように実施しています。繰り返しの訓練で火災報知器の音に「外行くの？」と利用者の反応も俊敏です。運営推進会議で災害事の待機、避難先、災害伝言ダイヤルの活用といった申し合わせができています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を背景に利用者の尊厳を大切に、相手に分かりやすい寄り添った言葉かけを心がけている。	「ご不浄」「お便所」と、その人にしか通じないワードでささやくように誘っています。重度化が進むに連れて食事や入浴は一律の時間で対応が困難となっています。安易な介助とせず個々の生活のペースをつくり、意欲に合わせた声かけと食事時間が守られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いを汲み取ったり、表情から読み取ったりして、本人が決定できるよう声掛けし。自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本なおおよその日課はあるが、一人ひとりのペースや希望を優先した支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には本人の意思にまかせている。自己決定しにくい方には選択していただいたり、本人の情報から職員が支援し、その人らしさが失われないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせたメニューを提供し良事が生活の中の楽しみとなるよう支援している。その方の嚥下状態に合わせ普通、きざみ、とろみ、ソフト食を用意し、嫌いなものがあれば別メニューで提供している。また、利用者と職員がいっしょに食事や片付けをし食事が楽しい時間となるよう支援している	専任職員が作るお好み焼きはおかわりも用意されるほど人気メニューのひとつとなっています。三食きちんと摂ることが難しくなり食が細くなっても、好みに合った食べ物をその人に合った形態で提供し、栄養補助食品を併用しながら経口摂取を支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー摂取量を考慮した献立を作り適切な食事形態にて提供している。また、一人ひとりの食事量・水分量を記録し、健康状態に留意した支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力や状態に合わせ、声掛けや見守りをして促している。できない方にはその方に合わせた口腔ケアを行ない、食べ続けることができるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力を考慮し、排泄パターンをつかみトイレでの排泄を促している。	立位保持がままならない人や寝たきりになっても心地よい自然排便のために職員二人介助でトイレでの排泄を援助しています。硬い便座で円背や痩身の利用者の皮膚を傷つけないよう緩衝材とカバーで覆い、座ることが苦痛にならない配慮もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を記録し、牛乳やヤクルト、ヨーグルトを提供したり十分な水分摂取、適度な運動を働きかけ、その方に応じた便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めてしまうことなく、希望があれば、それに応じた時間で入浴できるよう支援している。また、冬至の際には、ゆずを浮かべて季節感を味わい楽しめるよう支援している。	冬至に限定せず柚子の季節にはたくさん浮かべて香りを楽しみます。曜日を決めず、本人の意思に任せ午前、午後の入りたい時間として週2~3日を目安にしています。褥瘡予防のためにも皮膚観察や処置をおこない、入浴できない日には手浴、足浴で清潔を保持しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や状況に合わせ、いつでも休息がとれるよう支援している。また、適切な温度や湿度、清潔な寝具で安心して眠れるよう環境にも気を配り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方カードをいつでも確認できるようファイルし、用法や容量について理解している。また、症状に変化があれば看護師に伝え、その都度対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を十分に発揮していただけるよう、できそうなことをお願いし役割があることを実感できるよう支援している。また、食べたいものを職員といっしょに買いこいたり、外食するなど気分転換を図る支援も行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、外食など本人の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。また、自宅に行ったり、親族に会いに行くなど家族といっしょに出かけられるようにしている。	散歩の頻度は現状が維持できている人が多いことから察せられます。重度化により全員での外出は減りましたが、ADLの高い人の要望に応えたいと、企画は実行できるよう努めています。大型ショッピングセンターでペットコーナーを覗いたり、外食や花見ドライブも取り入れています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には財布に入れて所持し、買い物の際は支払いをしていただいている。できない方には職員が介助して行うが買い物をする楽しさは味わえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる利用者は現在いないが、電話で家族や知り合いといつでも連絡をとれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節感のある装飾をしたり、利用者といっしょに選んだ行事や日常の写真を飾ったりしている。また、クッションフロアを新しく張り替え明るい雰囲気になっている。	クッションフロアをリニューアルして雰囲気も清浄で衛生面も向上しています。園児達との交流の写真や共同作品が微笑ましく、明るい話材が連なります。壁面装飾は時節が感じられるツールとして担当職員が策を凝らしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のところどころにソファを置き、利用者がいつでも座って落ち着いた雰囲気でも過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は利用者と家族が相談し、使い慣れたものを置いている。また、ベッド使用の習慣がない利用者にはマットを敷いて布団を敷くなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	ベッド、床頭台、クローゼット、カーテン、エアコンが備付けです。本人や家族と相談してレイアウトを決めますが、エアコンの風が直接当たらない場所にベッドを設置しています。家族の写真や思い入れのある筆筒、テーブル、椅子に囲まれ安寧の暮らしが垣間見えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、わかりやすいように表示したり、目印をつけたりしている。また、危険な箇所はカバーをしたり、職員が介助して安全で自立した生活が送られるよう工夫している。		